

【BIM－積算システム連携中間ファイル】

BS-Transfer／仕上 項目説明書

Ver 1.0

平成 24 年 7 月 9 日

日本建築積算協会

情報委員会

目 次

1. プロジェクト	2
2. 棟	3
3. 階構成	4
4. 通芯情報	4
5. 仕上・下地リスト	5
6. 部屋情報	6
7. 部位情報	7
8. 間仕切リスト	8
9. 間仕切	9
10. 雑・金物	10
11. 建具・開口	11
12. 建具・開口接続情報	13
13. 部位頂点座標情報	15
14. 部材仕様	17

1. プロジェクト

(1) 定義

プロジェクトの概要情報を定義する。

(2) 項目の説明

- ① 中間ファイルバージョン
 - ・内容 : 積算協会中間ファイルのバージョン名称
 - ・例 : V1.0
- ② プロジェクトコード
 - ・内容 : プロジェクトを識別する一意のコード
 - ・例 : 201112-001
- ③ プロジェクト名
 - ・内容 : プロジェクトの名称
 - ・例 : (仮称) SKビル新築工事
- ④ プロジェクト管理情報
 - ・内容 : プロジェクトを補足する各種の情報
 - ・例 : 工事場所:東京都渋谷区渋谷1
- ⑤ データ作成日時
 - ・内容 : 当ファイルデータの作成日時
 - ・例 : 201201151315
- ⑥ データ作成ツール名
 - ・内容 : 中間ファイルを作成したBIMツールの名称
 - ・例 : OOCAD
- ⑦ データ作成ツールバージョン
 - ・内容 : 中間ファイルを作成したBIMツールのバージョン
 - ・例 : Ver 1.00
- ⑧ データ作成者
 - ・内容 : 中間ファイル作成者の名称
 - ・例 : □□設計事務所
- ⑨ 建具・開口接続情報 接続座標有無区分
 - ・内容 : 12. 建具・開口接続情報の ⑧開口相対接続座標1のX座標 及び ⑨開口相対接続座標1のY座標のデータを入れるか入れないかの区分
 - ・例 : 0:なし、1:あり
- ⑩ 部位頂点座標情報 座標有無区分
 - ・内容 : 13. 部位頂点座標情報の ⑦⑧相対座標位置 X方向、Y方向 ⑨⑩⑪絶対座標位置 X方向、Y方向及びZ方向のデータの有無区分
 - ・例 : 0:なし、1:あり

2. 棟

(1) 定義

棟の構成情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

- ・内容 : 棟を識別する一意なコード
- ・例 : 0001、0002 …

② 棟名称

- ・内容 : 棟の名称
- ・例 : A 棟、B 棟

③ 建物用途

- ・内容 : 建物の用途
- ・例 : 事務所、マンション …

④ 構造

- ・内容 : 建物の構造
- ・例 : RC 造、SRC 造、S 造 …

⑤ 地下階数

- ・内容 : 地下の階数 最大 99 階まで
- ・例 : 1,2,3 …

⑥ 地上階数

- ・内容 : 地上の階数 最大 999 階まで
- ・例 : 1,2,3 …

⑦ 塔屋階数

- ・内容 : 塔屋の階数 最大 99 階まで
- ・例 : 1,2,3 …

⑧ 建築面積(m²)

- ・内容 : 該当する棟の建築面積
- ・例 : 3,000 m²の場合 3000.00

⑨ 延床面積(m²)

- ・内容 : 該当する棟の延床面積
- ・例 : 10,000 m²の場合 10000.00

3. 階構成

(1) 定義

階の構成情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 階表示順コード

・内容 : 対象となる階の表示順を表すコード

・例 : 1,2,3 …

③ 階名称

・内容 : 階の名称

・例 : B1、1F、2F、P1

④ 階高(mm)

・内容 : 階の高さ

・例 : 3500mmの場合 3.50

⑤ 中間階区分

・内容 : 一般階、中間階の識別区分

・例 : 0:一般階、1:中間階

4. 通芯情報

(1) 定義

図面の通芯の座標情報を定義する。

但し、このデータは積算数量算出には使用しておらず、チェック用に使用する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 座標種別

・内容 : 座標軸の種類

・例 : 1:X 方向、2:Y 方向

③ 座標SEQNo.

・内容 : 座標軸を識別する一意なコード

・例 : 1,2,3 …

④ 軸名称

- ・内容 : 座標軸の通り芯名称
- ・例 : X1,X2,X3 ……、Y1,Y2,Y3 ……
- ⑤ 始点座標 X(mm)
 - ・内容 : 座標軸の始点の X 方向の座標
 - ・例 : 0、8000
- ⑥ 始点座標 Y(mm)
 - ・内容 : 座標軸の始点の Y 方向の座標
 - ・例 : 0、6000
- ⑦ 終点座標 X(mm)
 - ・内容 : 座標軸の終点の X 方向の座標
 - ・例 : 0、6000、8000
- ⑧ 終点座標 Y(mm)
 - ・内容 : 座標軸の終点の Y 方向の座標
 - ・例 : 0、6000、8000

5. 仕上・下地リスト

(1) 定義

部屋の仕上や下地を構成するリスト No.の定義、並びにリスト No に対応する仕上や下地の部材仕様との関連を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

②仕上・下地リストNo.

・内容 : 仕上・下地リストを識別する一意なコード

・例 : 1、2 ……

③仕上・下地構成No.

・内容 : 仕上・下地リスト No.における構成 No.で仕上・下地の層を表す。
仕上面は 1 を、下地面は 2 以降を設定する。

・例 : 1、2 ……

④ 部材コード

・内容: 14. 部材仕様の ②部材コード を入れる。

6. 部屋情報

(1) 定義

部屋の属性情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 部屋情報 No.

・内容 : 棟内で部屋につける一意な番号

・例 : 1,2,3 …

③ 内部/外部区分コード

・内容 : 部屋が外部か内部かを定義する。

・例 : 1:外部、2:内部、3:その他

④ 用途コード

・内容 : 部屋に属する用途を記入する。

・例 : 1,2,3 …

⑤ 用途名称

・内容 : 用途コードに対応した用途名称

・例 : 事務所、店舗 …

⑥ タイプ区分コード

・内容 : 部屋に共通するタイプがある場合に記入する。マンション等。

・例 : 1,2,3 …

⑦ タイプ区分名称

・内容 : タイプ区分コードに対応したタイプ名称

・例 : Aタイプ、Bタイプ …

⑧ 階表示順コード

・内容 : 3. 階構成の ②階表示順コードを入れる。

⑨ 部屋名

・内容 : 部屋の名称

・例 : 事務室、会議室 …

⑩ 天井高(mm)

・内容 : 部屋の天井高さ

・例 : 2500(mm) …

⑪ 周長(mm)

・内容 : 部屋の周長長さ

・例 : 24000(mm) …

⑫ 床面積(m²)

- ・内容 : 部屋の床面積
- ・例 : 36.00(m²) …

7. 部位情報

(1) 定義

部屋の仕上を積算するため、部位別に構成部材を分解した情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

- ・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 部屋情報 No.

- ・内容 : 6. 部屋 の ②部屋情報 No.を入れる。

③ 部位情報 No.

- ・内容 : 該当する部屋における一意な部位の番号
- ・例 : 1,2,3 …

④ 部位区分

- ・内容 : 部位を表す区分コード CI-NET に準拠する。
- ・例 : 010、020 …

⑤ 部位名称

- ・内容 : 部位の名称
- ・例 : 床、壁、天井

⑥ 形状区分

- ・内容 : 部位の形状区分コード
- ・例 : 1:平面、2:曲面(積算対象外)、3:直線、4:曲線

⑦ 仕上・下地リスト No

- ・内容 : 5. 仕上・下地リストの ②仕上・下地リスト No. を入れる。
このデータを介して部位の仕様と連携させる

⑧ 天井周長(mm)

- ・内容 : 部位区分が天井の場合の周長
- ・例 : 12000(mm) …

⑨ 壁床付長さ(mm)

- ・内容 : 部位区分が壁の場合の床付部分の長さ
- ・例 : 6000(mm) …

- ⑩ 面積(m²)
 - ・内容 : 面積物の部位(床、天井等)の面積
当該面積(BIM側が算出した面積)は、積算システム側が形状データから算出した面積と照合するために利用する。
 - ・例 : 36.00(m²) …
- ⑪ 巾木自動計算区分
 - ・内容 : 部位が壁の場合に巾木を自動計算するかしないかを指示する。
 - ・例 : 0:なし、1:自動計算
- ⑫ 仕上・下地リスト No.(巾木)
 - ・内容 : 5. 仕上・下地リストの ②仕上・下地 No. を入れる。
⑪で1:自動計算 を指示した場合、このデータを介して幅木の仕様と連携させる。
- ⑬ 廻り縁自動計算区分
 - ・内容 : 部位が天井の場合に廻り縁を自動計算するかしないかを指示する。
 - ・例 : 0:なし、1:自動計算
- ⑭ 仕上下地リスト No.(廻り縁)
 - ・内容 : 5. 仕上・下地リストの ②仕上・下地リスト No. を入れる。
⑬で1:自動計算 を指示した場合、このデータを介して回り縁の仕様と連携させる。
- ⑮ 数量
 - ・内容 : 該当する部位の箇所数。既定値を1とする。
 - ・例 : 1,2,3 …
- ⑯ 面積計算式
 - ・内容 : ⑩面積(m²)の計算根拠を表す計算式
 - ・例 : 12.00*7.50

8. 間仕切リスト

(1)定義

間仕切リスト No.の定義、並びにリスト No に対応する間仕切の部材仕様との関連を定義する。

(2)項目の説明

- ① 棟区分
 - ・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。
- ③ 間仕切リストNo.
 - ・内容 : 間仕切リストを識別する一意名番号
 - ・例 : 1、2、3…
- ③ 間仕切構成No.
 - ・内容 : 間仕切の層を表す番号

・例 : 1、2、3・・・

④ 部材コード

・内容 : 14. 部材仕様の ②部材コードを入れる。

9. 間仕切

(1) 定義

仕上に計上する間仕切の構成情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 間仕切情報 No.

・内容 : 間仕切を識別する一意な番号

・例 : 1、2、3・・・

③ 内部/外部区分コード

・内容 : 間仕切が内部か外部かの識別コード

・例 : 1:外部、2:内部・・・

④ 階表示順コード

・内容 : 3. 階構成の階表示順コードを入れる。

⑤ 部位区分

・内容 : 部位を表す区分コード。CI-NET LiteS の「1403 部位区分」を設定する。

・例 : 2100

⑥ 部位名称

・内容 : 部位の名称

・例 : 間仕切

⑦ 形状区分

・内容 : 間仕切の形状コード番号

・例 : 1:平面、2:曲面(積算対象外)

⑧ 間仕切リストNo.

・内容 : 8. 間仕切リストの ②間仕切リストNo. を入れる。

このデータを介して間仕切りの部材仕様と連携させる。

⑨ 数量(m²)

・内容 : 間仕切の数量(m²)

当該数量(BIM 側が算出した数量)は、積算システム側が形状データから算出した数量と照合するために利用する。

・例 : 18.09、15.68 ...

⑩ 数量計算式

・内容 : ⑨数量(m²)の計算根拠を表す計算式

・例 : 8.05*3.50

10. 雑・金物

(1) 定義

雑物、金物類の属性と数量情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 部屋情報No.

・内容 : 6. 部屋 (2) ②部屋情報 No. を入れる。

部屋に属さない場合は、部屋情報No.に ALLOをいれる。

③ 雑・金物サブNo.

・内容 : 部屋に属する雑・金物の一意な番号

・例 : 0001、0002 …

④ 部位区分

・内容: 部位を表す区分コード。CI-NET LiteS の「1403 部位区分」を設定する。

・例 : 2010、2020、2030、…

⑤ 部位名称

・内容 : 部位の名称

・例 : 巾木、廻り縁、雑

⑥ 部材コード

・内容 : 14. 部材仕様の ②部材コードを入れる。

⑦ 数量

・内容 : 雑・金物の積算数量

・例 : 1.00、2.00、3.00 …

⑧ 数量計算式

・内容 : ⑦数量の計算根拠を表す計算式

・例 : 4.00+3.00+5.00

11. 建具・開口

(1) 定義

建具や開口部の構成情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 建具・開口情報 No.

・内容 : 建具・開口本体毎の一意的番号

・例 : 1.2.3 …

③ 建具・開口情報サブ No.

・内容 : 建具・開口に接続する複数の構成要素がある場合の一意的番号
建具本体は 1 とする。

・例 : 1,2,3 …

④ 内部/外部区分コード

・内容 : 建具・開口が外部か内部かを定義する。

・例 : 1:外部、2:内部、3:その他

⑤ 建具・開口区分

・内容 : 建具本体、建具廻りの仕上を識別する区分

・例 : 1:建具、2:塗装、3:ガラス、4:モルタル、5:コーキング、6:金物

⑥ 建具・開口材質区分

・内容 : 建具の材質を識別する区分

・例 : 1:アルミ製、2:鋼製、3:ステンレス製、4 木製、5 その他

⑦ 建具・開口符号

・内容 : 建具・開口符号

・例 : AW1、AW2 …

⑧ W 寸法(mm)

・内容 : W 寸法(mm)

・例 : 600、1000 …

⑨ H 寸法(mm)

・内容 : H 寸法(mm)

・例 : 1000、1500 …

⑩ 建具・開口形状

・内容 : 建具・開口の形状を識別する区分

・例 : 1:四角、2:円、3:その他

⑪ 部材コード

・内容 : 14. 部材仕様の ②部材コードを入れる。

⑫ 建具・開口面積(m²)

・内容 : 建具・開口区分毎の面積を入れる。

1::建具:建具面積、2:塗装:塗装面積、3:ガラス:ガラス面積

当該面積(BIM側が算出した面積)は、積算システム側が形状データから算出した面積と照合するために利用する。

・例 : 3.50(m²)、6.00(m²) …

⑬ 建具・開口周長(mm)

・内容 : 建具開口の周長長さ

当該長さ(BIM側が算出した長さ)は、積算システム側が形状データから算出した長さと照合するために利用する。

・例 : 1000(mm)、2000(mm) …

⑭ 建具・開口はき出し長さ(mm)

・内容 : 巾木を自動計算する場合に巾木自動減算する長さ

・例 : 500(mm)、1000(mm) …

⑮ 建具数量(か所)

・内容 : 建具の数量または金物の数量を設定する。開口部は不要。

・例 : 1、2、3 …

⑯ 面積計算式

・内容 : ⑫建具・開口面積(m²)の計算根拠を表す計算式

・例 : 1.50*0.50

⑰ 周長計算式

・内容 : ⑬建具・開口周長(mm)の計算根拠を表す計算式

・例 : 1.50*2.00+0.50

12. 建具・開口接続情報

(1) 定義

建具・開口と部位との接続情報を定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 接続対象区分

・内容 : 建具・開口が接続する対象の区分

・例 : 1:部屋、2:間仕切

③ 接続情報 No.

・内容 : 接続対象区分が 1:部屋の場合 6. 部屋情報 の ②部屋情報 No.
2:間仕切の場合 9. 間仕切 の ②間仕切情報 No.を入れる。

④ 部位情報 No.

・内容 : 接続対象区分が 1:部屋の場合のみ接続する部位の 7. 部位情報の③部位情報 No.を入れる。

⑤ 建具・開口接続 SEQ

・内容 : 建具・開口に接続する情報の No.

・例 : 1、2、3 …

⑥ 建具・開口情報 No.

・内容 : 11. 建具・開口 の ②建具・開口情報 No.を入れる。

⑦ 建具タイプ区分

・内容 : 建具の巾木接続状態を表す区分

・例 : 0:巾木減無、1:巾木減有

⑧ 建具・開口相対接続座標1の X 座標(mm)

・内容 : 開口相対接続座標1の X 座標(mm)

当該建具・開口が壁等の部位に組み込まれる時に、当該建具・開口が壁等のどの位置に取り付けられるのかを壁等の相対座標上に指示する。

座標1の X 座標とは、当該建具・開口の座標 SEQ1の X 座標頂点が、壁等の相対座標上のどの位置にあるかを示す。

・例 : 1000(mm)、2000(mm) …

⑨ 建具・開口相対接続座標1の Y 座標(mm)

・内容 : 開口相対接続座標1の Y 座標(mm)

⑧の説明と同じ。

座標1の Y 座標とは、当該建具・開口の座標 SEQ1の Y 座標頂点が、壁等の相対座標上のどの位置にあるかを示す。

・例 : 1000(mm)、2000(mm) …

⑩ 正面・裏面タイプ

・内容 : 建具の正面形状は建具の「13. 部位頂点座標情報」の頂点座標で決まるが、左右対称でない建具・開口が壁などに取り付けられるとき、正面で取り付けられるか裏面で取り付けられるかを指示する。

・例 : 1:正面、2:裏面

⑪ 分割開口部面積(m²)

・内容 : 建具・開口部が壁などに取り付けられる時、建具・開口部が複数の壁部材にまたがる場合、その部材に締める開口面積を設定する。

・例 : 1000.00、2000.00 …

13. 部位頂点座標情報

(1) 定義

部位毎の座標情報を定義する。

座標の定義に当たっては、部位等の対象物の頂点を右回りに定義することを原則とする。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② データ区分

・内容 : 部位の場所区分

・例 : 01:部屋、02:間仕切、03:建具・開口

③ 接続情報 No

・内容 : データ区分が 01:部屋の場合 6. 部屋情報 の ②部屋情報 No.
02:間仕切の場合 9. 間仕切 の ②間仕切情報 No.を入れる。

④ 部位情報 No.

・内容 : データ区分が 01:部屋の場合のみ接続する部位の7. 部位情報の③部位情報 No.
を入れる。

⑤ 建具・開口接続 SEQ

・内容 : データ区分が 03:建具・開口の場合のみ 建具・開口接続 SEQ

⑥ 座標 SEQ

・内容 : 座標頂点の番号

座標の設定については、床、天井などの水平面は任意の頂点から、壁、建具、間仕切などの垂直面は左下の頂点から、座標 SEQ:1、右回りに次の頂点を座標 SEQ:2、……と順番に最後の頂点まで定義する。

・例 : 1、2、3 …

- ⑦ 相対座標位置 X 方向(mm)
 - ・内容 : 部位頂点の X 方向相対座標位置
 - ・例 : 1000(mm)、2000(mm) …
- ⑧ 相対座標位置 Y 方向(mm)
 - ・内容 : 部位頂点の Y 方向相対座標位置
 - ・例 : 1000(mm)、2000(mm) …
- ⑨ 絶対座標位置 X 方向(mm)
 - ・内容 : 部位頂点の X 方向絶対座標位置
 - ・例 : 1000(mm)、2000(mm) …
- ⑩ 絶対座標位置 Y 方向(mm)
 - ・内容 : 部位頂点の Y 方向絶対座標位置
 - ・例 : 1000(mm)、2000(mm) …
 - ・
- ⑪ 絶対座標位置 Z 方向(mm)
 - ・内容 : 部位頂点の Z 方向絶対座標位置
 - ・例 : 1000(mm)、2000(mm) …

14. 部材仕様

(1) 定義

仕上・下地リスト、間仕切りリスト、建具・開口を構成する部材の仕様を明細書書式で定義する。

(2) 項目の説明

① 棟区分

・内容 : 2. 棟 の ①棟区分を入れる。

② 部材コード

・内容 : 部材を識別する一意なコード

・例 : 0001、0002 …

③ 補助明細コード

・内容 : 部材コード内の構成番号

CI-NET LiteS の「1289 補助明細コード」に対応する。

・例 : 00~49

④ 建設資機材コード

・内容 : CI-NET の「1279 建設資機材コード」に準ずる。

- ⑤ 品名・名称1
- ・内容 : 部材の材料名称
CI-NET LiteS の「1213 品名・名称」に対応する。
 - ・例 : 磁気モザイクタイル張 …
- ⑥ 品名・名称2
- ・内容 : 部材の材料名称
CI-NET LiteS の「1213 品名・名称」に対応する。
- ⑦ 規格・仕様・摘要1
- ・内容 : 部材の規格・仕様・摘要名称
CI-NET LiteS の「1214 規格・仕様・適用」に対応する。
 - ・例 : 50角 …
- ⑧ 規格・仕様・摘要2
- ・内容 : 部材の規格・仕様・摘要名称
CI-NET LiteS の「1214 規格・仕様・適用」に対応する。
- ⑨ 設計記号・機器記号
- ・内容 : 設計記号、機器記号等
CI-NET LiteS の「1401 設計記号・機器記号」に対応する。
- ⑩ 明細数量単位
- ・内容 : 部材の単位名称
CI-NET LiteS の「1219 明細数量単位」に対応する。
 - ・例 : m、m²、m³…
- ⑪ 単価
- ・内容 : 部材の単価
CI-NET LiteS の「1222 単価」に対応する。
 - ・例 : 10,000 …
- ⑫ 明細別備考欄1
- ・内容 : 部材の備考上段
CI-NET LiteS の「1251 明細別備考欄」に対応する。
- ⑬ 明細別備考欄2
- ・内容 : 部材の備考下段
CI-NET LiteS の「1251 明細別備考欄」に対応する。
- ⑭ 明細別工種・科目コード
- ・内容 : 部材の工種・科目コード
CI-NET LiteS の「1402 工種・科目コード」に準拠する。
 - ・例 : 2010000、2015000 …

- ⑮ 工種・科目名称
 - ・内容 : 部材の工種・科目名称
 - ・例 : 防水工事、左官工事 …
- ⑯ 細目コード
 - ・内容 : 部材の細目コード
 - ・例 : 001、002 …
- ⑰ 細目名称
 - ・内容 : 部材の細目名称
 - ・例 : アルミ製建具、鋼製建具 …